



詩

星野哲郎

周防大島町
(1925～2010)



提供・星野哲郎音楽事務所 所有 限 会 社 紙 の 舟

【著作】

「三百六十五歩のマーチ」(唄…水前寺清子)(昭和43)
「風雪ながれ旅」(唄…北島三郎)(昭和55)
「みだれ髪」(唄…美空ひばり)(昭和62) ほか

【閲覧情報】

星野哲郎記念館(大島郡周防大島町)にて作詞活動
に関する資料を展示
星野哲郎公式ウェブサイト「いろはにせらしど」に
おいて詳細な作詞年譜が閲覧可能

三百六十五歩のマーチ

星野哲郎作詞
米山正夫作曲
水前寺清子唄

しあわせは 歩いてこない
だから歩いて ゆくんだね
一日一歩 三日で二歩
三歩進んで 二歩さがる
人生は ワン・ツー・パンチ
汗かき ベソかき 歩こうよ
あなたのつけた 足あとにや
きれいな花が 咲くでしょう
※腕を振って 足をあげて
ワン・ツー・ワン・ツー
休まないで 歩け
ソレ ワン・ツー ワン・ツー
ワン・ツー ワン・ツー
しあわせの 扉はせまい
だからしゃがんで 通るのね
百日百歩 千日千歩
ままになる日も ならぬ日も
人生は ワン・ツー・パンチ
あしたのあしたは またあした
あなたはいつも 新しい
希望の虹を だいている
※くり返し

しあわせの 隣りにいても
わからない日も あるんだね
一年 三百六十五日
一歩違いで にがしても
人生は ワン・ツー・パンチ
歩みを止めずに 夢みよう
千里の道も 一歩から
はじまることを 信じよう
※くり返し

「三百六十五歩のマーチ」歌詞
(JASRAC承認番号19019081901)

星野哲郎

年譜

大正14(一九二五)年	昭和6(一九三二)年	昭和13(一九三八)年	昭和18(一九四三)年	昭和21(一九四六)年	昭和23(一九四八)年	昭和27(一九五二)年	昭和32(一九五七)年	昭和33(一九五八)年	昭和34(一九五九)年	昭和37(一九六二)年	昭和39(一九六四)年	昭和40(一九六五)年	昭和42(一九六七)年	昭和43(一九六八)年	昭和44(一九六九)年	昭和45(一九七〇)年	昭和46(一九七一)年	昭和47(一九七二)年	昭和48(一九七三)年	昭和49(一九七四)年	昭和50(一九七五)年	昭和51(一九七六)年	昭和52(一九七七)年	昭和53(一九七八)年	昭和54(一九七九)年	昭和55(一九八〇)年	昭和56(一九八一)年	昭和57(一九八二)年	昭和58(一九八三)年	昭和59(一九八四)年	昭和60(一九八五)年	昭和61(一九八六)年	昭和62(一九八七)年	昭和63(一九八八)年	昭和64(一九八九)年	昭和65(一九九〇)年	昭和66(一九九一年)年	昭和67(一九九二年)年	昭和68(一九九三年)年	昭和69(一九九四年)年	昭和70(一九九五年)年	昭和71(一九九六年)年	昭和72(一九九七年)年	昭和73(一九九八年)年	昭和74(一九九九年)年	昭和75(二〇〇〇)年	昭和76(二〇〇一年)年	昭和77(二〇〇二年)年	昭和78(二〇〇三年)年	昭和79(二〇〇四年)年	昭和80(二〇〇五年)年	昭和81(二〇〇六年)年	昭和82(二〇〇七年)年	昭和83(二〇〇八年)年	昭和84(二〇〇九年)年	昭和85(二〇一〇)年	昭和86(二〇一一)年	昭和87(二〇一二)年	昭和88(二〇一三年)年	昭和89(二〇一四年)年	昭和90(二〇一五年)年	昭和91(二〇一六年)年	昭和92(二〇一七年)年	昭和93(二〇一八年)年	昭和94(二〇一九年)年	昭和95(二〇二〇)年	昭和96(二〇二一年)年	昭和97(二〇二二年)年	昭和98(二〇二三年)年	昭和99(二〇二四年)年	昭和100(二〇二五年)年
-------------	------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	-------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	-------------	-------------	-------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	-------------	--------------	--------------	--------------	--------------	---------------

六歳	一三歳	一八歳	二一歳	二三歳	二七歳	三二歳	三三歳	三四歳	三七歳	三九歳	四〇歳	四二歳	四三歳	四四歳	四五歳	四六歳	四七歳	四八歳	四九歳	五〇歳	五一歳	五二歳	五三歳	五四歳	五五歳	五七歳	五八歳	五九歳	六〇歳	六一歳	六二歳	六三歳	六四歳	六五歳	六六歳	六七歳	六八歳	六九歳	七〇歳	七一歳	七二歳	七三歳	七四歳	七五歳	七六歳	七七歳	七八歳	七九歳	八〇歳	八一歳	八二歳	八三歳	八四歳	八五歳
----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

9月30日、山口県大島郡森野村(現・周防大島町)和佐に生まれる。
東和町立開導小学校に入学。
山口県立旧制安下庄中学校(現・周防大島高等学校)に入学。
静岡県清水市の高等商船学校(現・東京海洋大学)に入学。
高等商船学校卒業。日魯漁業下関支社に漁船の機関士として入社。
腎臓結核を患い下船、右の腎臓摘出手術を受ける。術後の経過が芳しくなく帰郷、寝たきりの生活となる。このころから病床より詞の投稿を始める。
雑誌『平凡』の歌謡コンクールに入選。作詞家・石本美由起により補作・改題され、昭和28年「チャイナの波止場」(唄…コロムビア・ローズ／若山彰)として初めてレコード化される。
横浜開港100周年記念「横浜の歌」募集に1位2位同時入選。作曲・船村徹、唄…美空ひばりで「浜っ子マドロス」としてレコード化。プロの作詞家を目指して上京する。
日本コロムビアの専属作詞家になる。「思い出さん今日は」(唄…島倉千代子)発売。
「黄色いさくらんぼ」(唄…スリー・キャッツ)発売。初めてのミリオンセラーとなる。
「出世街道」(唄…島山みどり)発売。2作目のミリオンセラー。
日本クラウンの専属作詞家となる。「アンコ椿は恋の花」(唄…都はるみ)、「涙を抱いた渡り鳥」(唄…水前寺清子)、「自動車ショー歌」(唄…小林旭)発売。年間作詞100曲以上。
「兄弟仁義」(唄…北島三郎)、「函館の女」(唄…北島三郎)発売。1年間で150作以上手がける。
「いつでも君は」(唄…水前寺清子)発売。翌年の第1回日本作詩大賞を受賞。
「三百六十五歩のマーチ」(唄…水前寺清子)発売。
「男はつらいよ」(唄…渥美清)発売。
運輸大臣より海事功労賞を受賞。
「昔の名前で出ています」(唄…小林旭)を発売。翌々年の全日本有線放送大賞グランプリを受賞。
「風雪ながれ旅」(唄…北島三郎)発売。第1回古賀政男記念音楽大賞を受賞。
日本音楽著作家連合会長に就任(2001年)。「兄弟船」(唄…鳥羽一郎)発売。
日本クラウンとの専属契約を終了。フリーの作詞家となる。
紫綬褒章を受章。
「雪椿」(唄…小林幸子)発売。12月美空ひばりの復帰作「みだれ髪」が発売される。
第1回「全日本えん歌蚤の市」を山口県大島郡東和町(現・周防大島町)で開催。
「北の大地」(唄…北島三郎)が第24回日本作詩大賞と第33回日本レコード大賞を受賞。
日本作詩家協会会長に就任(2008年)。
動三等瑞寶章を受章。
日本音楽著作権協会会長に就任(2004年)。
第1回山口県文化特別功労賞を受賞。
第13回「全日本えん歌蚤の市スペシャル」を故郷・山口県大島郡東和町(現・周防大島町)で開催。都はるみ・水前寺清子・島津亜矢などゆかりの歌手が多数出演した。
12月、永年の業績が顕彰され第45回日本レコード大賞特別選奨受賞。
7月25日、故郷周防大島町に星野哲郎記念館がオープン。
周防大島の子供たちを支援する奨学金制度「星野哲郎スカラシップ」を創設。
11月15日、心不全にて逝去。同日、正五位を贈られる。

(提供・星野哲郎音楽事務所 所有 限 会 社 紙 の 舟)

星野哲郎(本名・有近哲郎)は、大正十四年(一九二五)、周防大島に生まれる。戦後の日本歌謡界を代表する作詞家の一人であり、手掛けた作品数は約三千曲に及ぶ。数々のヒット曲を生み出したが、「三百六十五歩のマーチ」に象徴される「人生の応援歌」をライフワークとして追求した。
昭和二十一年(一九四六)、船乗り憧れで進んだ高等商船学校(現・東京海洋大学)を卒業。日魯漁業下関支社に漁船の機関士として就職するが、二年後に腎臓結核を患い下船する。右の腎臓を摘出手術を受けた後、故郷で四年に及ぶ闘病生活を送る。当初は寝たきりの苦難の日々であったが、周囲の愛情に抱かれて心身の傷は癒えていった。「人生の応援歌」は、この闘病の体験を原点にしている。
闘病生活中は文芸誌に投稿しつつ活路を求めた。昭和二十七年(一九五二)、雑誌『平凡』誌上における日本コロムビア主催の歌謡コンクールの入選を契機にして作詞家の石本美由起の知遇を得る。以後は石本が主宰した歌謡同人誌『新歌謡界』を拠点として歌謡詞の創作に励む。詞の冒頭の二行に作品の生命を刻む作詞法は、この投稿作家の時代に培われた。
昭和三十二年(一九五七)、横浜開港百周年を記念して公募された「横浜の歌」で一、二位を独占する快挙を達成する。コンクールの選者であった作曲家船村徹の熱心な勧めにより上京し、翌三十三年(一九五八)に日本コロムビアの専属作詞家となる。以後、一日一作を日課とし、巷に「生きた言葉」を拾いながら自身の作風を広げた。
昭和六十三年(一九八八)、第一回「全日本えん歌蚤の市」を故郷の周防大島で主宰。これは地元元のボランティアによって運営されたチャリティコンサートであり、平成十五年(二〇〇三)の同地における最終回まで日本各地で計十三回開催された。
平成十九年(二〇〇七)、周防大島町に星野哲郎記念館がオープン。翌年、故郷への感謝の意を表して「星野哲郎スカラシップ」が創設された。実施された十年間に返済義務のない奨学金が計五十人の子供たちに授与された。
星野は海を題材とした作詞家としてもよく知られた。大成した後にも「僕は船乗りで終わりがかった」と回顧し、断ちがたい思いを数々の潮歌に託した。
平成二十二年(二〇一〇)逝去。出棺の際には自作の「男はつらいよ」が会場に流された。

(文・木下尊行)



思いついた歌詞やタイトルを書きとめた
コースター類。多くの作品がここから生まれた。



周防大島町筏八幡宮前にある「なみだ船」の歌碑。
碑文は星野と船村徹による自筆。